

子供たちの学校適応感が分かる

# 「学校楽しいーと」の活用事例



先日、「学校楽しいーと」を実施したのですが、これからどう活用すればよいのか悩んでいます。  
先生は、「学校楽しいーと」をどのように活用されているのでしょうか？  
具体的な実践事例で紹介していただくと助かります。

分かりました。それでは、私の学級のAさんを事例にして、R-PDCAサイクルに基づいた「学校楽しいーと」の活用について紹介しますね。

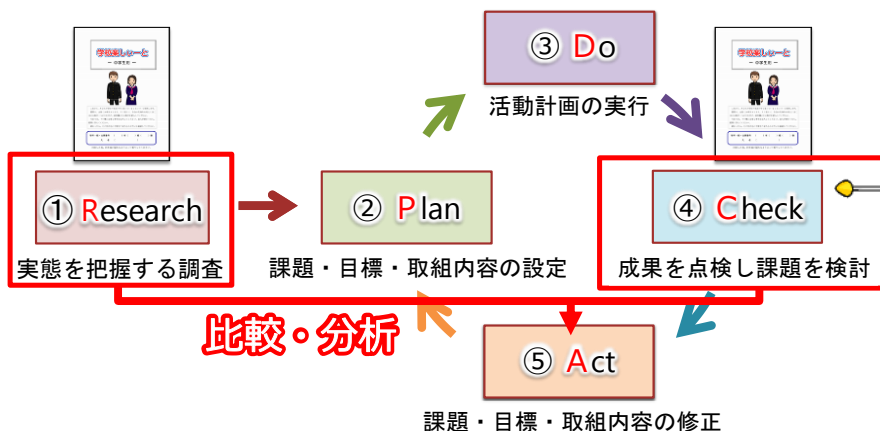
R-PDCAサイクル？  
すみませんが、そのR-PDCAサイクルから教えてください。



## R-PDCAサイクルに基づいて計画的に活用する

R-PDCAサイクルとは、検証改善サイクルのことです。「学校楽しいーと」を有効に活用するためには、「Research（実態を把握する）→Plan（計画を設定する）→Do（実行する）→Check（点検する）→Act（改善する）」に基づいて計画的に進めていくことが大切です。

年間計画を立てるときの骨子になるのですね。



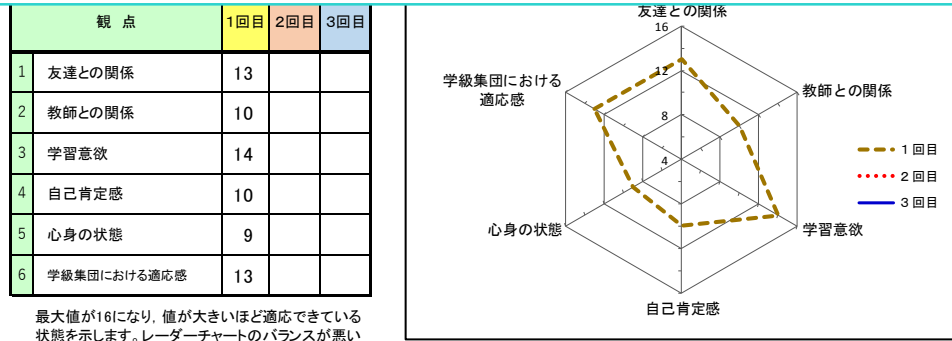
- ① Research：「学校楽しいーと」で児童生徒の学校適応感を「調査」する。
- ② Plan：明らかになった課題を基に、目標（支援策）と取組内容（手立て）を「設定」する。
- ③ Do：設定したPlanに基づいて「実行」する。
- ④ Check：取組前にResearchした指標の結果と比較してどのように変容したかを「点検」する。
- ⑤ Act：行動計画、目標や方向性を見直し、新たに「修正」した行動計画を立案する。

# ① Research (アセスメント)



私のクラスは6月に1回目の調査をしました。この個票は、そのときのAさんの結果です。先生は、Aさんの個票をどのようにアセスメント（児童生徒理解）しますか。

観点別に見ると、「心身の状態」と「教師との関係」, 「自己肯定感」が低いですね。下位項目では、6番の「落ち込むことがある」が1になっていて、気になります。あと、2の回答がいくつかあることも気になります。



観点	質問	1回目	2回目	3回目	観点	質問	1回目	2回目	3回目
友達との関係	1 学校には、気軽に話せる友達がいる。	4			教師との関係	2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	2		
	9 学級には、気軽に会話ができたり、遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	2				10 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	3		
	15 学校には、自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	4				16 学校には、自分が間違いや失敗しても、きちんと話を聞ってくれる先生がいる。	3		
	21 自分が困っているときに助けてくれたり、協力してくれたりする友達がいる。	3				22 学校の先生たちは、自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	2		
学習意欲	5 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	4			自己肯定感	4 委員会活動や係(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	2		
	13 授業中は、先生の話をよく聞いている。	4				12 学校行事の計画や準備をやり逃げたとき、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	3		
	19 授業中、自分から進んで学習に取り組んでいる。	3				18 自分には、自分なりのよいところがあると思う。	3		
	25 学習した内容をきちんと理解するための、自分なりの学習の仕方がある。	3				24 他人から好かれている方だと思う。	2		
心身の状態	6 落ち込むことがある。	1			学級集団における適応感	3 学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる。	3		
	14 おなかが痛くなったり、下痢をしたりする。	2				11 学級のみんなどと一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。	3		
	20 頭が痛くなるときがある。	3				17 この学級の一員でよかったと思うことがある。	4		
	26 気分が悪くなることがある。	3				23 学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる。	3		

確かにその通りです。先生が指摘されたところは、Aさんが困っているところ、ウィークポイントになります。アセスメントは、ウィークポイントだけではなく、努力できているところ、肯定的に受け止めているところであるストロングポイントを理解することも必要です。



そうなんです。値が低いところばかりに注目していました。

( いじめる項目はレーダーチャートに表示されません )

1 = 「困っています」

( 合計 )

学校全体で対応してください。



Aさんのストロングポイントは、「学習意欲」, 「友達との関係」, 「学級集団における適応感」の観点と理解できます。あと、下位項目を見ると、3の回答になっている項目が14あります。このような肯定的に回答している項目は、「できていて当たり前」と思っていると、ついつい見落としてしまいやすいので気を付けないといけません。

私も努力しているところや、できているところを認められると、うれしい気持ちになります。ストロングポイントに着目することの大切さが分かりました。



でも先生、「学校楽しいーと」の回答だけで支援策を考えるのは  
 難しい不是吗？

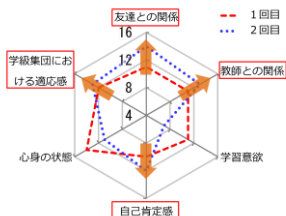


その通りです。Aさんが「学校楽しいーと」で回答した背景を丁寧に理解する必要があります。私は、学年会でAさんの「学校楽しいーと」を見てもらったり、Aさんと教育相談※をしたりして多面的なアセスメントをするように心掛けました。その後、客観的なアセスメントから目標（支援策）を立てて、取組内容（手立て）を実行しました。

※「学校楽しいーと」を活用した教育相談

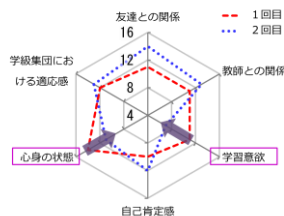
● ストロングポイント

「〇〇がよくなっているね、どうしてか教えてくれる？」と質問して考えを引き出す。



● ウィークポイント

「〇〇ができるようになりたい」と思っているんだね。」と本人の困り感に共感する姿勢で優しく語り掛ける。



① Research



計画を立てる上で  
 的確なアセスメントはとても大切です。



アセスメント

Aさんは、授業で積極的に発表ができていますが、級友が自分のことをどう思っているのかを意識しており、その悩みを友達や先生に相談したいが誰にも相談できない状態にある。また、みんなの役に立ちたい思いはあるが、行動できていないために頭が痛くなったり腹痛があったりと身体症状に現れている。



② Plan



目標と取組内容は、Aさんに関わる先生方と共通理解を図りました。

目標（支援策）

Aさんが頑張っている学習面を級友に認められるように活躍の場を設定し、教師や級友に思っていることや考えていることを積極的に自己表現できるように支援する。

取組内容（手立て）

- ・ グループ活動の学習場面を積極的に設定し、互いに意見を認め合える環境をつくっていく。
- ・ 「私はこう考える。」とIメッセージを発信できるように、アサーション・トレーニングの一部を実施する。
- ・ 「進路」をテーマに構成的グループエンカウンターを取り入れたLHRを実施する。



③ Do



取組内容では、「教師との関係」が低かったので、Aさんとの信頼関係を築けるように、いつでも相談できる関わり方を特に大切にしました。



# ④ Check

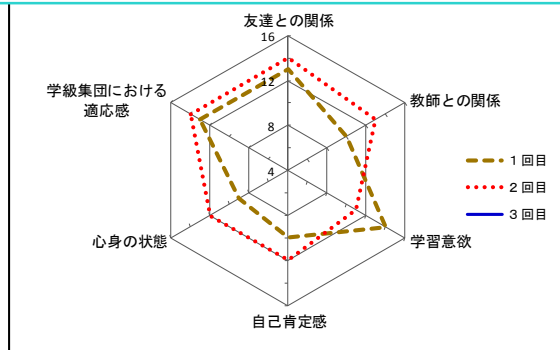


10月に実施したAさんの2回目の結果です。



1回目の結果と比べて「教師との関係」, 「自己肯定感」, 「心身の状態」の値は高くなり, 「学習の意欲」の値は低くなるように変わっていますね。

観点	1回目	2回目	3回目
1 友達との関係	13	14 ↑	
2 教師との関係	10	13 ↑	
3 学習意欲	14	11 ↓	
4 自己肯定感	10	12 ↑	
5 心身の状態	9	12 ↑	
6 学級集団における適応感	13	14 ↑	



最大値が16になり、値が大きいほど適応できている状態を示します。レーダーチャートのバランスが悪い場合は不安定な状態を示しています。

観点	質問	1回目	2回目	3回目	観点	質問	1回目	2回目	3回目
友達との関係	1 学校には、気軽に話せる友達がいる。	4	4		教師との関係	2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	2	3	
	9 学級には、気軽に会話ができたし、遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	4	3			10 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	3	4	
	15 学校には、自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	4	4			16 学校には、自分が間違えたり失敗しても、きちんと話を聞いてくれる先生がいる。	3	3	
	21 自分が困っているときに助けてくれたり、協力してくれたりする友達がいる。	3	3			22 学校の先生たちは、自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	2	3	
学習意欲	5 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	4	3		自己肯定感	4 委員会活動や係(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	2	3	
	13 授業中は、先生の話をよく聞いている。	4	4			12 学校行事の計画や準備をやり遂げたとき、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	3	3	
	19 授業中、自分から進んで学習に取り組んでいる。	3	2			18 自分には、自分なりのよいところがあると思う。	3	3	
	25 学習した内容をきちんと理解するための、自分なりの学習の仕方がある。	3	2			24 他人から好かれている方だと思う。	2	3	
心身の状態	6 落ち込むことがある。	1	1		学級集団における適応感	3 学級の中になると、明るく楽しい気持ちになる。	3	3	
	14 おなかや痛くなったり、下痢をしたりする。	2	3			11 学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。	3	4	
	20 頭が痛くなるときがある。	3	4			17 この学級の一員でよかったと思うことがある。	4	4	
	26 気分が悪くなることがある。	3	4			23 学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる。	3	3	

# ⑤ Act

最近、Aさんは明るい表情をよく見せるようになり、クラスのリーダーとして学校行事を盛り上げてくれてもいます。ただ、学習面で思い悩むことがあるようなので、次のように目標と取組内容を修正して、現在、関わっています。

# ② Plan

(2回目のサイクル)

## 目標 (支援策)

学習面でのつまづきを理解し、努力しているところを積極的に認める姿勢で支援する。

## 取組内容 (手立て)

- 自分なりの学習計画を自主的に立てることができるようコーチングでアプローチする。
- 授業中での発表や意見を周囲が肯定的に受け止められるようにソーシャルスキルトレーニングを実施する。

大変、参考になりました。早速、R-PDCAサイクルで「学校楽しいーと」を活用します。

平成30年3月発行  
【編集兼発行】

「学校適応感の変容を把握できる 比較用『学校楽しいーと』」  
鹿児島県総合教育センター 〒891-1305 鹿児島県鹿児島市宮之浦町862  
代表 (099) 294-2311 FAX (099) 294-2309 URL <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>  
E-Mail [center@edu.pref.kagoshima.jp](mailto:center@edu.pref.kagoshima.jp)